

ZENRAKUREN

MEMBER'S INFORMATION

全酪連会報

嫁・婿が語る酪農の魅力

高嶋 和磨さん

ご当地牛乳・乳製品特集

平成25年度

監事・役職員研修会

平成24年度会員概況調査より



酪農トピックス／

「生きる」を学ぶ酪農教育(福岡)ほか

日本酪農見て歩紀(沖縄県南城市 アーミファーム(株))

酪政連活動報告



3

2014 March No.582



全国酪農業協同組合連合会

都会を離れ酪農の道へ

3月の婿

伊那酪農つつじヶ丘牧場 高嶋 和磨さん

「嫁・婿が語る酪農の魅力」第18弾として、伊那酪農つつじヶ丘牧場の高嶋 和磨さんにお話を伺いました。



嫁
婿
が
語
る

酪農の魅力 ⑮

つつじヶ丘牧場の概要と和磨さんの役割を教えてください。

有限会社つつじヶ丘牧場は、長野県伊那市にあります。所属組合は伊那酪農業協同組合です。伊那市は東に南アルプス、西に中央アルプスという2つのアルプスに抱かれ、市の中央部を天竜川と三峰川が流れる自然豊かな都市



牛舎外観

です。「天下第一の桜」と称される高遠城址公園の桜や仙丈ヶ岳を中心とする南アルプス国立公園といった観光資源があります。また、スキー場や農業公園、温泉入浴施設なども整備され、多くの観光客がこれらの観光地を訪れています。

有限会社つつじヶ丘牧場は、搾乳牛120頭、自家育成牛35頭を飼養しています。また、育成預託牛が35頭上牧中です。家族構成は私（和磨さん）、妻（萌さん）、長女（麗々ちゃん）、次女（優愛ちゃん）、両親（昇さん、裕子さん）の6人家族です。

仕事は、家族4名（和磨さん、萌さん、昇さん、裕子さん）と従業員2名の計6名で行っています。搾乳担当は私、妻、従業員1名の3名が担当となっており、私が主体となり常時2名で行っています。圃場作業は義父と私が担当しています。給餌作業、経理は義父が担当、哺乳は妻、義母が担当しています。



搾乳牛舎

奥様との出会いから結婚までの経緯について教えてください。

私は、東京都小金井市に生まれ育ちました。小学生の頃から野球を続けて



乾乳牛舎



育成牛舎

おり、高校では甲子園出場を果たしました。社会人になり、東京の飲食店で働いていた時に妻がお客さんとして訪れたのが最初の出会いです。お互い惹かれ合い1年の交際を経て結婚を決意しました。

結婚の挨拶で妻の実家へ訪ねた時に初めて牛を見ました。最初の牛の印象は大きくて怖かったです。もともとは動物が好きでしたが、その時はまさか自分が酪農をやるとは思っていませんでした。

酪農に対する思いと、苦勞した事を教えてください。

苦勞した事は、朝早くから起きて仕事しなければならぬ事、牛が怖かった事、それと馴れない農業機械の運転でした。早起きは今でも苦手です。トラクターも牧場へ来るまで見た事がありませんでした。また、学生時代は農業とは無関係の学部であった事もあり、牛や機械の事で覚えなくてはならない事も沢山あり大変でした。5年が経ちやっとなつてきたところです。この5年間はあつという間でした。

現在はフリーバーン牛舎の為、発情発見や飼料摂取量把握などの固別別管理が難しいと感じています。

結婚してから現在まで

結婚して5年目になりますが、東京から長野へ来たばかりの頃は周りに友人もおらず、長野の生活にもなかなか馴染めず淋しく感じる事もありましたが、妻の支えや、お義父さん、お義母さんがとても良くしてくださった事でここまで続けてくる事が出来ました。

酪農の魅力について

時間的な縛りが少なく、自分のペース配分で仕事が出来、動物が好き、牛が好きなので、動物に接する事が出来、楽しんで働ける事です。

今後の目標

常に色々な事が目標です。現在密飼の気味なので、牛舎新設も視野に入れて考えています。1頭あたりの乳量増も大きな目標です。

また、自給粗飼料の確保にも力を入れたいと考えています。ここ2年間で圃場面積を25町歩増やし、全部で35町歩ほどになっていますが、もっと増やしたいですね。

人工授精も修行中のため、1人で全部出来るようにしたいと思っています。

家族揃って



ご主人から奥さんへ一言

長野へ来たばかりの頃は色々迷惑も掛けてしまった事もあったけど、今まで支えてくれてありがとう、これから宜しくお願いします。

奥さんからご主人へ一言

東京から長野へ来てくれてありがとうございます。5年が経ち酪農家っぽくなってきてくれた事が一番嬉しいです。毎朝の搾乳も一緒に楽しく出来ているし、これから先もずっと一緒に楽しくやっていけたらと思っています。これからも宜しくお願いします。



ご当地

牛乳・乳製品 特集

日本各地に様々な種類がある牛乳・乳製品ですが、他地域でどのような商品があるかご存知でしょうか？ご当地でしか食べられない牛乳・乳製品をご紹介します！と立ち上がったこの企画。今月号は名古屋支所管内の商品をご紹介します。



大内山やわらかプリン ラッテ エパンナ

価 格：128 円（税込） 製造者・販売者：大内山酪農農業協同組合
<http://www.ouchiyamarakunou.com/> 問い合わせ先：0598-72-2221
 購入可能場所：大内山牛乳販売店、県内スーパー・コンビニエンス など

アピールポイント

- クリームをたっぷりを使用したミルクプリンです。
- ふわっと柔らかいとろけるような食感と、口の中で広がる生クリームの深いコクを味わって下さい。
- 牛乳のおいしさと栄養をそのままいかしたデザートです。

内容量：100 g
 原材料（成分表）：乳、砂糖、乳製品、ゲル化剤（増粘多糖類）、香料、（原材料の一部にゼラチンを含む）

北アルプス厳選牛乳

価 格：341 円（税込） 製造者・販売者：飛騨酪農農業協同組合
<http://www.hida.or.jp/> 問い合わせ先：0577-32-0208
 購入可能場所：飛騨酪農農業協同組合各営業所、家庭配達のみ

アピールポイント

- 北アルプス山麓の豊かな自然環境のもと厳選された6戸のNON-GMO牛乳生産酪農家（遺伝子組み換え飼料を含まない、またはその割合が極めて低いと認められた飼料を給与している酪農家）による飛騨産100%の生乳です。
- 低温殺菌（65℃ 30 分間）していますので、生乳の風味をそのまま味わえます。
- 牛乳本来の味を心のふるさと飛騨高山よりお届けします。

内容量：900ml
 原材料（成分表）：生乳 100%



ひるがの牛乳 1000ml

価 格：ひるがの牛乳 238 円（税込）、ひるがの低温殺菌牛乳 258 円（税込）
 製造者・販売者：美濃酪農農業協同組合連合会
<http://www.minoraku.or.jp/>
 問い合わせ先：0575-33-4455
 購入可能場所：JA とれたた広場（関・可児店）・イオン（関・各務原店）
 アビタ（御嵩・大垣店）

アピールポイント

- 岐阜県おくみの地区 11 軒の酪農家さんの産地限定牛乳です。
- 集乳して 24 時間以内で製品化する鮮度重視牛乳です。
- NON-GMO（遺伝子組み換え原料を含まない、またはその割合が極めて低いと認められた）飼料を給与している酪農家の生乳のみ使用しています。

内容量：1000ml
 原材料（成分表）：生乳 100%

平成25年度

監事・役職員研修会

監査、酪農の情勢と 今後の展望について

2月6日(木)～7日(金)、福岡県福岡市の「ホテルオークラ福岡」において、平成25年度監事・役職員研修会を開催しました。当研修会は全国の会員組合の監事・役職員を対象に毎年開催しており、会員酪農協・関係団体及び本会合わせて計61名の参加となりました。

研修会1日目 前半

「これからの監査のあり方について」

J A全国監査機構 監査企画部

白石 幸人 担当部長



農協検査は、個別事項の不備・欠陥を中心に検証してきたスタイルから、被検査団体ごとのリスク特性に応じ、経営管理態勢に不備や欠陥は無いのか、リスク管理上の問題点は無いかなどの検証に重点が置かれる方向に変わって来ている（具体例として、農協検査（3者要請検査）結果事例集をもとに、現場の問題点の原因が本店所管部や経営陣の「態勢整備の不備」や「実態把握の不足」等として指摘された事例などを紹介）。

行政検査を待つまでもなく、組合の経営管理、内部管理を自ら強化していくために監事、内部監査、J A全国監査機構の監査が夫々の機能・役割を果たしていく必要があるが、取締役（理事）の職務執行をチェックする監査役（監事）に対する世間の注目度は近年とみに高まっていることを認識のうえ対応いただきたい。J A全国監査機構も組合の経営管理、内部管理態勢強化に資する業務監査の取り組みに注力していく方針である。

研修会1日目 後半

「日本の酪農を取り巻く情勢について」

九州大学大学院 福田 晋 教授



農産物は、価格・所得に係わらず需要にはさほど変動がないが、牛乳の価格が1%上がると、とたんに加工乳・成分調整牛乳へと需要がシフトすることから、代替財のある牛乳は価格変化に敏感な商品であることが分かる。また、チーズは所得が増えると敏感に反応し、消費嗜好も強い。若い世代でも嗜好の多様化が進んでいることから、他の農産物同様に、

消費者を意識した経営展開（食べる牛乳の消費転換等）を図ることが重要ではないか。今後、経営を見直すための低コスト高収益構造として、コントラクター等を活用した分業型、飼料米やエコフイード活用による飼料費のコストカットなどを地域で行うことで、酪農へ新規参入しやすい構造が出来るのではないか。

研修会2日目

「酪農・牛乳の歴史と未来について」

本会購買部 酪農生産指導室 久保園 弘 技監



酪農業は、戦後急速に発展し、戸数（約42万戸）、頭数（約211万頭）、乳量（約866万t）のピークを迎えたのち、現在は戸数・頭数・乳量共に減少傾向だが、1戸当たりの飼養頭数は現在も伸び続け、1頭当たりの乳量は世界第3位と、技術力の高さを誇っている。後継者確保状況は農業全体で3割を切っている中、酪農は6割近く確保できており、本会としても経営継承の一助になるよう支援していきたい。現在、世界的に乳製品の需

要は急速に増えているが、供給が追いついてない。乳製品の国際価格は高止まりし、国際乳価の平均も10年前と比較し2.5倍になっている。日本の国内消費量は1,200万t（国内生産で750万t、輸入で450万t）で、飲用向けの消費は減少しているが、需要量はこの20年変化していない。日本の乳質は世界でもトップクラスであり、将来的に乳価上昇の可能性は高く、未来は明るい展望が開けているのではないかと。

当研修会の内容についてのご質問・また資料請求の希望などがありましたら、全酪連指導・企画部（03-5931-8003）もしくは各支所指導組織課までお問い合わせください。

平成24年度

会員概況調査より

本会では、会員酪農協における組織・事業の概要を把握することにより、事業運営における問題点を明確にし、その改善を図り、体質強化に資することを目的として会員概況調査を実施しております。

この度、平成24年度の調査結果がまとまりましたのでご報告します。なお、データは、各会員より提出された「会員概況調査票」の数値を使用し、集計を行っています。

1 本会の会員概況

図1

平成24年度末時点 本会会員の内訳

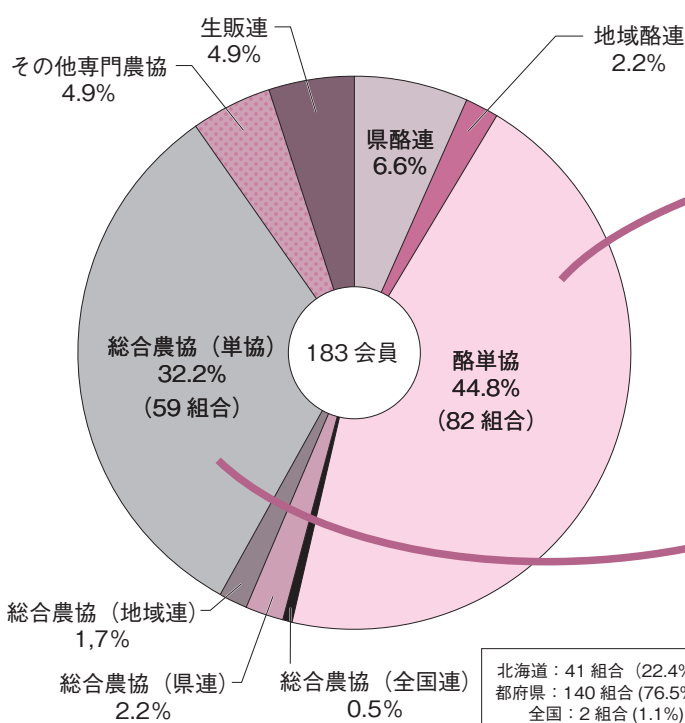


図2

酪単協の内訳

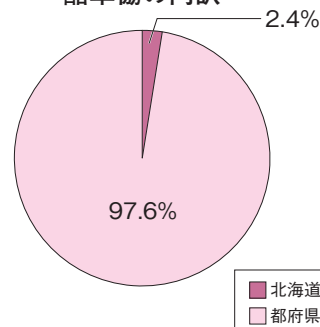
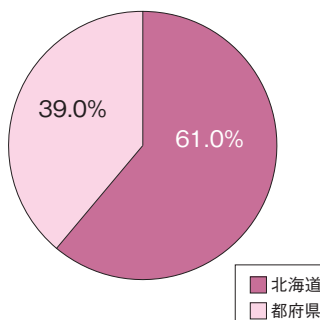


図3

総合農協 (単協) の内訳



解説

図1は平成24年度末時点での本会会員の内訳をまとめたものである。

これを見ると専門酪農協が53.6%、総合農協が36.6%、他専門農協、生販連が残り9.8%を占めている。
また、それぞれの内訳を見ると、酪単協はほぼ都府県が占めており、総合農協(単協)は北海道6割、都府県4割となっている。

2 会員の酪農概況 [対象:酪単協・総合農協(単協)]

表1

	1組合当たりの平均酪農家戸数(戸)				1組合当たりの平均乳牛飼養頭数(頭)								1組合当たりの平均年間出荷乳量(t)			
	H21	H22	H23	H24	H21	うち未経産	H22	うち未経産	H23	うち未経産	H24	うち未経産	H21	H22	H23	H24
北海道	132	129	126	120	16,203	6,530	15,222	6,276	15,424	6,455	15,419	6,473	70,003	69,386	69,109	67,611
都府県	104	99	94	90	5,581	1,686	4,968	1,301	4,916	1,290	4,840	1,253	32,386	30,780	29,753	30,303
全体	113	109	104	100	7,983	2,903	7,437	2,551	7,455	2,606	7,322	2,526	44,196	42,900	42,109	42,016

図4

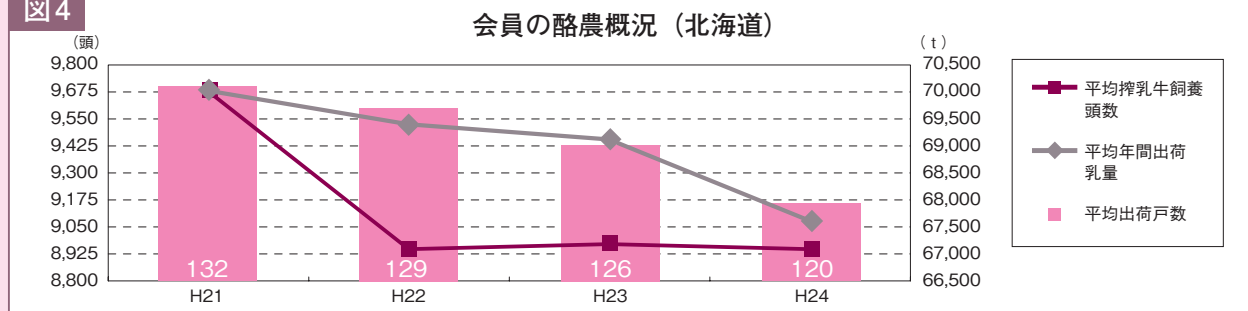
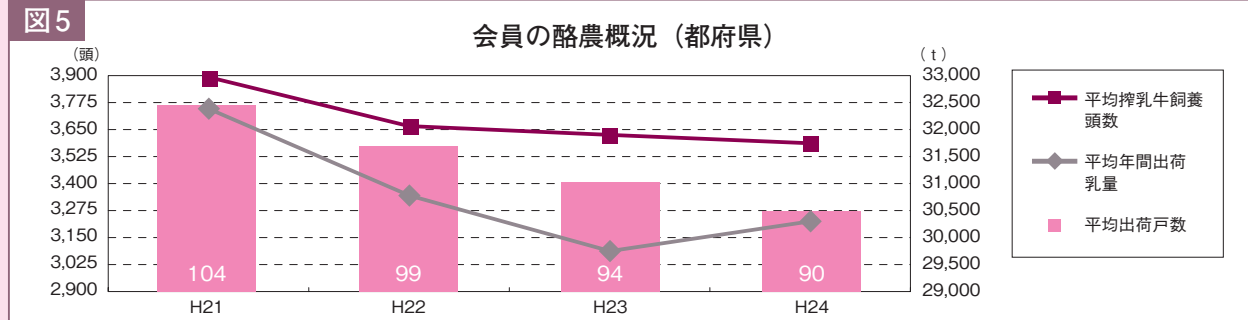
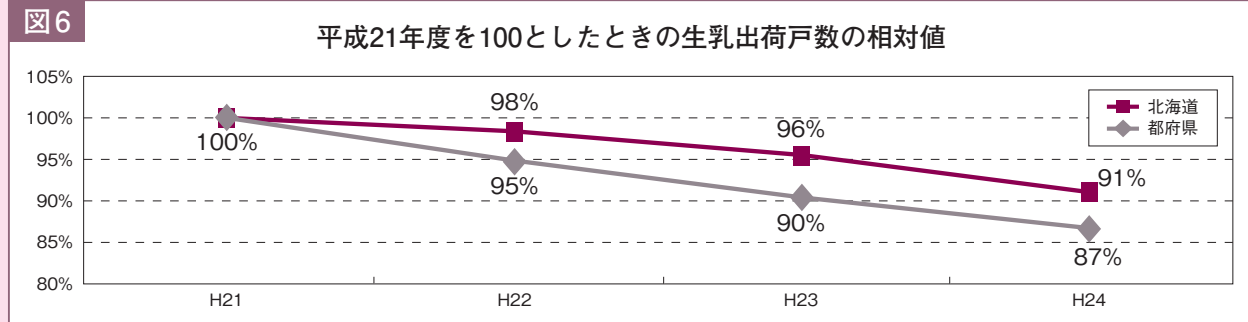


図5



※図4、5で値は異なるものの、軸の幅を統一して表示

図6



解説

表1及び図4～6では、北海道と都府県の酪農概況を示した。(141組合中、提出・記入のあった北海道27組合、都府県59組合にて集計)

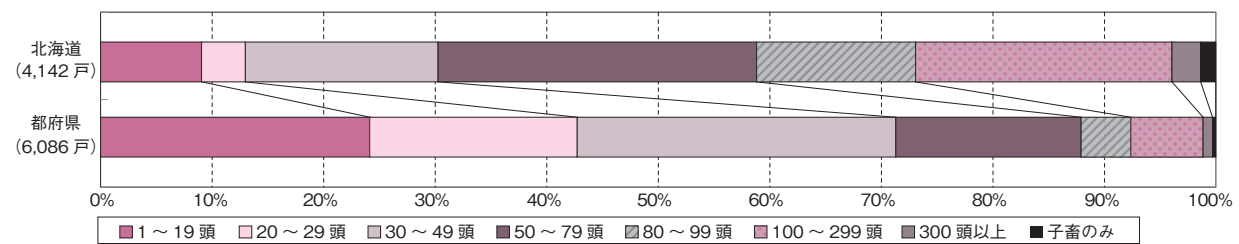
図5を見ると、都府県は戸数の減少に伴い、(平成23年度の震災の影響を除き)頭数も乳量も比例して減っていることが分かる。

それに比べ、図4の北海道は生乳出荷戸数の減少が比較的なだらかではあるものの、平成23年度から平成24年度の1年間では急激に減少している。また、飼養頭数の減少率に比べ、乳量はさほど下がっていないが、平成24年は極端に落ちている。これは、一昨年の夏場の暑熱や自給飼料の不作等により、乳量が減少している可能性も示唆される。北海道と都府県の生乳出荷戸数を比較した図6では、都府県の離農率が高いことを可視化できる結果となった。

3 地域別飼養規模 [対象:酪単協・総合農協(単協)]

図7

地域別飼養規模



解説

図7では、地域別の飼養規模別酪農家戸数を示した。(141組合中、提出・記入のあった北海道34組合、都府県83組合にて集計)

北海道は50頭以上が7割を占めるのに対し、都府県は50頭未満が7割を占めていることが分かる。

4 酪単協における職員の内訳 [対象:酪単協]

図8

酪単協における性別・年齢別の正職員数

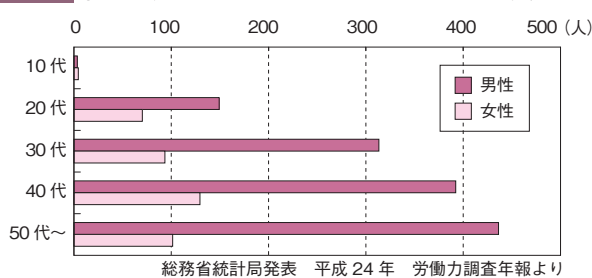


図9

全産業における性別・年齢別就業者数

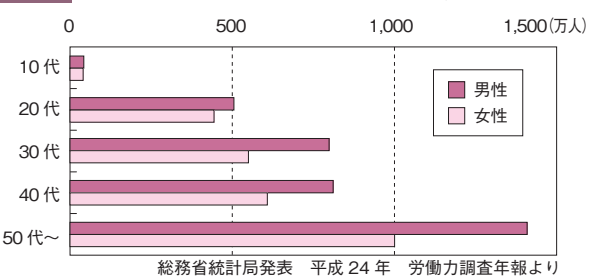
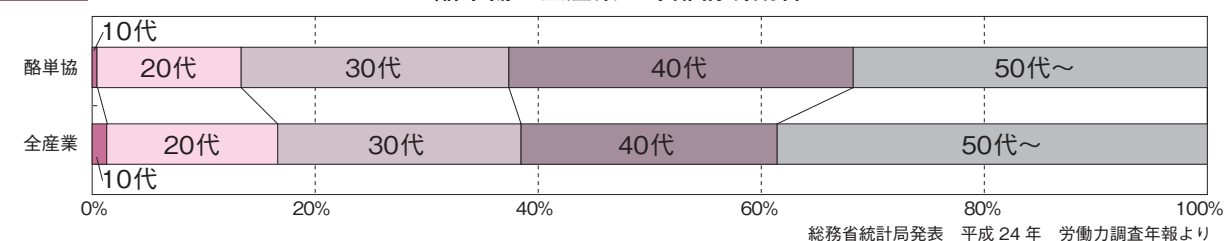


図10

酪単協と全産業の年齢構成割合



解説

図8では、酪単協の性別・年齢別正職員数を示した。(酪単協82組合中61組合にて集計)

酪単協では、男性と女性の比率は2:1～4:1と、年齢を重ねるごとに男性の割合が多くなっていることが分かる。また、図9の全産業の男女比約3:2と比較すると、酪単協では女性が少ない傾向であることが分かる。

図10の年齢構成割合を見ると、どちらも40代～50代が6割以上を占めている。職務に精通した職員が多いとの見方もできる一方、早くから若手職員の教育に力を入れる必要があることが想定された。表2を見ると、全産業と比較すると少ないものの、非正規職員が3割弱であることが分かる。

表2

	合計	正職員	非正規職員
酪単協	2,319人	1,690人 (73%)	629人 (27%)
全産業	5,154万人	3,340万人 (65%)	1,813万人 (35%)

総務省統計局発表 平成24年 労働力調査年報(詳細集計)より
※共に役員を除く

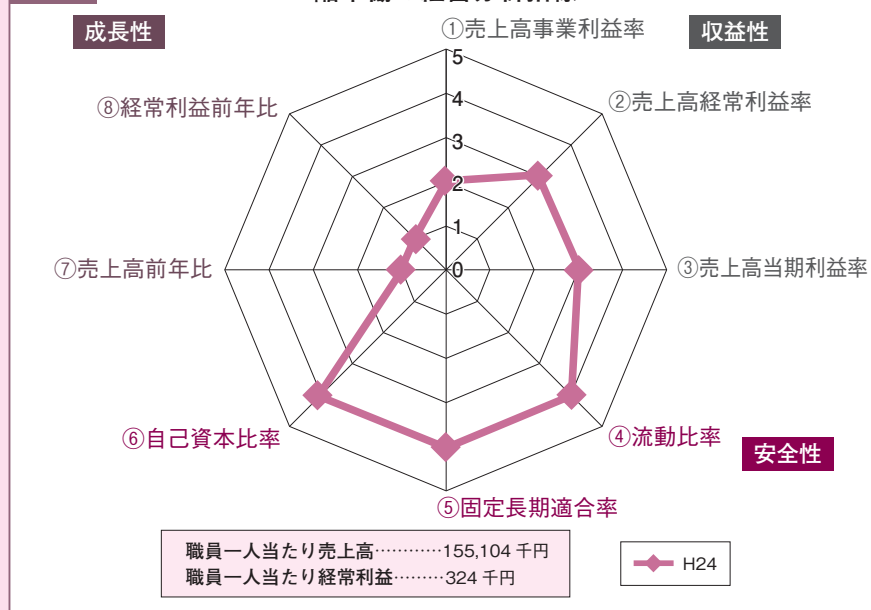
5 酪単協における経営指標 [対象: 酪単協]

表3

経営指標	5段階評価				
①売上高事業利益率(%) (事業利益÷売上高×100)	1 △1.0%未満	2 △1.0～0.0%	3 0.0～1.0%	4 1.0～2.0%	5 2.0%以上
②売上高経常利益率(%) (経常利益÷売上高×100)	1 △1.0%未満	2 △1.0～0.0%	3 0.0～1.0%	4 1.0～2.0%	5 2.0%以上
③売上高当期利益率(%) (当期純利益÷売上高×100)	1 △1.0%未満	2 △1.0～0.0%	3 0.0～1.0%	4 1.0～2.0%	5 2.0%以上
④流動比率(%) (流動資産÷流動負債×100)	1 80%未満	2 80～100%	3 100～120%	4 120～150%	5 150%以上
⑤固定長期適合率(%) {固定資産÷(自己資本+固定負債)}×100}	1 120%超	2 120～100%	3 100～80%	4 80～60%	5 60%以下
⑥自己資本比率(%) (自己資本÷純資本×100)	1 10%未満	2 10～20%	3 20～30%	4 30～40%	5 40%以上
⑦売上高前年比(%) (当期売上高÷前期売上高×100)	1 95%未満	2 95～100%	3 100～105%	4 105～110%	5 110%以上
⑧経常利益前年比(%) (当期経常利益÷前期経常利益×100)	1 50%未満	2 50～100%	3 100～150%	4 150～200%	5 200%以上

図11

酪単協の経営分析指標



解説

図11は、酪単協の経営指標を分析したものである。
(酪単協82組合中67組合にて集計)

成長性、収益性、安全性から8つの経営指標を5段階で評価してチャート図にしたものであり、面の広がりやの程度と年度ごとの推移で判断する。面が大きく広がっているほど良い(5段階評価は表3参照)。

自己資本が高いため安全性指標が高い結果となっている。売上高、経常利益が共に落ち込んでおり、厳しい現状が窺える。

6 最後に

この度、調査にご協力いただいた会員・関係者の皆様にこの場を借りて感謝申し上げます。会員概況調査においては、会員組合から提出される調査票が多いほど、より正確なデータが解析できます。全国の本会会員の動向を定期的に報告させていただくためにも、今後とも本調査へのご協力をお願いいたします。

札幌
支所発

「平成26年度乳用育成牛委託販売研究会研修会」開催

1月31日(金)から2月1日(土)にかけて、乳用育成牛委託販売研究会による「平成26年度研修会」が阿寒温泉（北海道釧路市）にて開かれ、当日は北海道内の預託農家、農協関係者等37名が参加しました。参加者は帯広にて集合したのち、十勝管内の牧場を2軒視察しました。その後、阿寒温泉のホテルに移

動して開かれた意見交換会では、活発な意見交換が行われ、終始白熱した議論が展開されました。

全酪連では今後もこのような研修を通じ、府県よりお預かりしている育成牛の管理技術の、より一層の向上に努めていきたいと思っております。

(T.K)



意見交換会の様子

視察風景 ▼▶



名古屋
支所発

岐阜県酪農青年女性会議酪農発表会 「繋ぐ＝必ずバトンを渡すんだ」

1月31日(金)、岐阜県関市JAめぐみの会議室において岐阜県酪農青年女性会議主催（大井幸男委員長）の酪農発表会が開催されました。発表会には、酪農家・組合役職員・県関係者・牧場従業員など約60名の参加があり、岐阜県農政部畜産課の事例紹介「飼料用米の生産と利用」やパネルディスカッション「雇用について考える」が同時に行なわれ、会場に集まった多くの酪友の参加による活発な意見交換もあり、発表会は大いに盛り上りました。

意見・体験部門で岐阜酪農協・臼井貴子さんが『繋ぐ』と題して、飼料用米やWCSの有効活用により、飼料代のコスト削減や牛群の飼養管理が円滑になり、酪農経営に余裕ができたので、さらに雇用を



大井委員長 挨拶

増やして「ゆとりある酪農経営」を目指し、若い世代に「必ずバトンを渡すんだ」と熱く語られました。岐阜県代表として3月に開催される中部大会での活躍が期待される臼井さんには、会場からの力強い多くの声援が送られていました。

また、岐阜県酪農青年女性会議として「牛乳・乳製品の消費拡大」の意識高揚を図るため、岐阜県産の生乳を使用した地元乳製品製造工場のモッツァレラチーズやリコッタチーズの試食会も行われました。そして、今注目される飼料用米・WCSの有効活用の紹介や、牛乳・乳製品の消費拡大のための乳製品紹介が行われるなど有意義な発表会となりました。

(O.M)



会場の様子

福岡
支所発

「生きる」を学ぶ酪農教育

— 九州酪農青年女性会議 平成25年度指導者研修会 —

去る1月30日(休)～31日(金)、大分県日田市「みくまホテル」にて、九州酪農青年女性会議平成25年度指導者研修会が開催されました。

今年の研修会メインテーマは開催地である大分県の方言を交えて『好いちよる牛乳、飲んじよる牛乳体に最高の「お・も・て・な・し」っちゃ!!』と設定し、当日は九州・沖縄各県から116名の酪友が参集しました。

開会では、主催の九州酪農青年女性会議 内ヶ島賢勇委員長挨拶の後、地元を代表して大分県農林水産部畜産課技術室 天野博史室長、大分県酪農業協同組合 清末健一代表理事組合長が祝辞を述べられました。

研修会では、熊本市立川尻小学校校長、日本酪農教育ファーム研究会副会長、ソニー化学教育研究会熊本県支部副支部長の藤田まり子先生をお招きし、『「生きる」を学ぶ酪農教育～今、学校現場に求められているものに、酪農教育が新たな切り口からせまる!～』と題して講演を頂きました。藤田先生は、熊本県内の酪農教育ファーム認証牧場であるオオヤブデリーファーム、らくのうマザーズ阿蘇ミルク牧場において酪農体験学習に取り組まれており、講演ではその実践内容と、学習後に子どもたちがどのように変容したかについて、学習事後アンケートのデータ等に基づき分かりやすく話して頂きました。



▲ 内ヶ島委員長



▲ 清末組合長



▲ 研修会の様子

そして「子供たちに、生きるために農家がしていること、考えていることをありのままに示し、体験させ、酪農家さんの思いや願い、工夫、喜び、悩み、苦しみ、これらすべてを伝えていくことで理解しあえる仲間を増やしていきたい」と、酪農、そして酪農教育ファームへの熱い思いを語られ講演を締めくくり、参加された皆さんは深く感銘を受けられていました。



▲ 藤田まり子先生

講演終了後は意見交換会が行われ、最初に話題提供として酪農教育ファームの認証を受けて活動されている、また地域一丸となって酪農体験学習を行っている酪農家の方々からそれぞれの取組を発表して頂き、藤田先生、そして参加者のみなさんとの間で活発な意見交換がなされました。

講演終了後は意見交換会が行われ、最初に話題提供として酪農教育ファームの認証を受けて活動されている、また地域一丸となって酪農体験学習を行っている酪農家の方々からそれぞれの取組を発表して頂き、藤田先生、そして参加者のみなさんとの間で活発な意見交換がなされました。

研修会終了後の交流会は、内ヶ島委員長の挨拶、大分県酪農業協同組合 榎木成男参事による歓迎の挨拶と乾杯により始まりしました。地元大分より、県内で活躍する声楽家の方による美しい歌の披露と大分県酪農青年女性会議の皆さんによるダンスが余興として披露され、会場は大いに盛り上がりしました。

2日目は、会場を日田アストロبولに移し、ボーリングによるスポーツ大会を開催しました。個人の点数を競う個人戦と、各県の1人当たりの平均点数を競う団体戦を行い、こちらも大いに盛り上がりしました。

最後に、次回開催県である鹿児島県を代表して、鹿児島県酪農女性部の迫千穂子部長が閉会の辞を述べ、25年度指導者研修会は幕を閉じました。



▲ 記念撮影

(Y.K)

名古屋
支所発

愛知県酪農農業協同組合青年女性部主催 「酪コン」開催

— 酪農家との出会いを目的とした合コン —

2月8日(土)、愛知県半田市の「ステーキハウス森牧場」において、酪農後継者とお見合いパーティー「酪コン」が開催されました。

当日は全国的な大雪ではありましたが、男性16名、女性15名の参加をいただき、自己紹介タイムからフリートーキングまで熱い想いをお互いにぶつけ合い、さらにその後のグループ別の「バター作り競争」で、会場の熱気は一気に高まりました。昼食



▲ 酪コン会場

は会場のレストランで美味しい牛肉を食し、参加された皆さんは大満足した様子でした。

午後は「いちご狩り」を楽し



▲ いちご狩り風景

んでいただき、より一層仲を深め、見事カップルになった参加者には豪華景品がプレゼントされ、「楽しい思い出の1日」となったことでしょう。また、「カップル誕生」は4組あり、当日の大雪を融かすほどの熱気で、会場はアツアツの状態となりました。

また、今後もこのような「酪コン」が継続されることが、酪農家後継者への婚活支援の取り組みとして大いに役立つだろうと強く感じました。

(O.H)

新規就農 経営移譲

を希望される方

酪農ヘルパー全国協会ホームページの新規就農情報または全国農業会議所の全国新規就農相談センターにアクセスしてみてください。

酪農ヘルパー全国協会



<http://d-helper.lin.gr.jp/newfarmer/index.html>

全国新規就農相談センター



<http://www.nca.or.jp/Be-farmer/index.php>

全酪連のホームページからも入れます。

<http://www.zenrakuren.or.jp/>



全酪連ホームページのトップ

↓
右下リンク

↓
新規就農情報 [(-)酪農ヘルパー全国協会]
新規就農情報 [全国農業会議所]



右から従業員の比嘉さん、吉崎さん、新垣さん、実習生 ▲

No.250
アーミファーム(株)
沖縄県南城市

更なる進化を目指して

地域の概況

沖縄県南城市は、平成18年に1町3村（佐敷町・知念村・玉城村・大里村）の合併により誕生しました。沖縄本島南部の東海岸、県都那覇市から南東へ約12kmに位置し、静穏な中城湾と太平洋に面しています。東西18km、南北8kmの広がりを持ち、面積は49・70km²です。那覇空港から40分圏内にある市域は、緑豊かな自然環境に囲まれ、神の島久高島、世界遺産である「斎場御嶽（せーふうたき）」をはじめ深い歴史を刻んだ多くの「グスク」、東御廻り（あがりうまーい）の文化遺産など貴重な歴史・文化史跡を持っています。

アーミファーム(株)が所属する沖縄県酪農農業協同組合（新里重夫代表



牛舎外観

経営概況

理事組合長）は生乳出荷戸数68戸、出荷乳量23,166t（平成24年度実績）となっております。



アーミファーム(株)は、経営主の中村成則さん（54）、従業員の新垣隆史さん（50）、比嘉倫理さん（34）、吉崎走さん（29）の4名で飼養管理全般を行っています。飼養頭数は経産牛70頭、育成牛24頭（うち9頭は県内の育成牧場へ預託）です。飼料はすべて購入で、TMRで1日朝夕2回給与を行っており、出荷乳量は615t（H24年度実績）となっております。

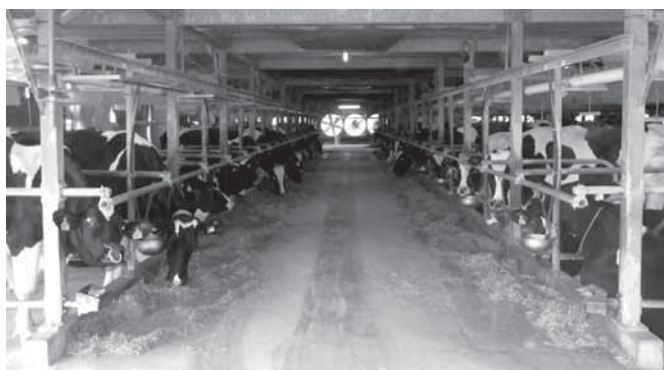
牧場の沿革

アーミファーム(株)の歴史は、経営主の中村さんのお父さんが昭和40年頃に4頭の乳牛を飼い始めたことからスタートしました。47年に現在地



経営主の中村成則さん

に牛舎を施設し10頭増頭、その後53年に牛舎を新築し32頭に増頭。平成14年に中村さんが就農し、しばらくはお父さんと2人で経営を行い、平成18年に中村さんが経営を移譲されました。この頃は飼料価格の高騰や県内の生乳生産量が余剰で出荷制限枠が設定されるなど、大変厳しい時期でしたが、中村さんは「この厳しい中、離農者が増えれば必ず生産量が落ちる。ピンチの時にチャンス」と前向きに考え、規模拡大を決意。そして、今までのような牛舎構造ではこれからの酪農には対応できないと考え、作業効率やカウコンフォートを考慮し、平成20年にトンネル換気システムを取り入れた90頭牛舎を新築し、規模拡大を行いました。そして平成24年に法人化し、現在の



搾乳牛舎

アーミファーム(株)を設立しました。また、平成24年より全酪連経営診断システム(DMS)を本格導入し、日々の記帳や経営分析、定期的な全酪連担当者との打ち合わせを行うなどして、経営に活用されています。

従業員のノウハウを活かす

中村さんは、平成20年頃から従業員の雇用を始めました。採用する際のポイントを中村さんに伺ったところ、重視されているのは「明るくて、前向きで、しっかり挨拶ができる」ということだそうです。酪農経験の有無や年齢も一切問わないそうです。中村さんいわく、「前向きであれば、経験がなくても仕事の飲み込みが早いし、お互い前向きに夢を語り合い仕事のモチベーションをあげていくことができる」とのこと。実際、現在アーミファーム(株)で勤務されている従業員3名の方は、酪農経験はなく異業種から入られた方ばかりですが、現在では全員が全ての作業をこなすことができるそうです。



袋詰め堆肥

アーミファーム(株)の従業員の方々は、異業種での仕事で得た様々なノウハウをもたれています。従業員の新垣さんは若い頃に広告代理店に勤務された経験があり、そこで得たスキルを利用して、堆肥販売用の袋のデザインやチラシ、ポスターのデザイン等をしているそうです。また、吉崎さんも琉球大学で細菌を学び研究に明け暮れていた経験を持っているため、その知識をこの牛舎に活かして、近い将来アーミファーム(株)の

中に、沖縄では初めてとなる酪農家自前の検査室を設け、乳質の管理を徹底していこうと話しているそうです。

堆肥販売について

県内の酪農は購入飼料に依存しているため、堆肥の処理が経営を圧迫させることがないようにと、堆肥の袋詰め販売にも取り組まれております。堆肥は「すくすくゆうき」という製品名で月約2,000袋出荷しており、県内の小売店やホームセンターで販売されております。販売に要する作業が酪農部門に負担にならないよう、堆肥の販売や配送を全て代理店に委託されております。今まで厄介者であった牛糞を上手く利



堆肥袋詰め作業場



牛舎内 ロゴマークと経営理念



牛舎内ロゴマーク

用し、安定的に流通・販売することが可能になれば、経営を圧迫するどころか、新たな雇用を生み出すことも可能になると中村さんは考えており、今後も堆肥販売の事業の拡大を図りたいとのことでした。

魅力ある酪農を目指して

中村さんは、これからの沖縄県の酪農生産基盤の維持発展のためには、従業員、そして担い手の育成が重要だと考えておられます。そのためには、従来の酪農が持つ労働時間や休暇の問題を、仕事の効率化と経営の合理化を図ることによって解決し、現代にあわせた労働環境を提供し、文化的な生活を送ってもらうことこそ、酪農の発展につながると考えておられます。アミファーム(株)で

は、3年前から地元の農大生等の研修を受け入れ、指導のノウハウを蓄積されマニュアル化し、常時受け入れを行える体制をとり、担い手の育成に取り組んでいます。

アミファーム(株)に来てまず目に入るのが、牛舎の床に描かれた大きなロゴマークです。ロゴマークのデザインは従業員の垣田さんがデザインを考案されたそうです。

●ロゴマークの意味は

・黄色の矢印は文化的な生活への貢献を目指すという意味で、矢印のスタートで線が幾つかに分かれているのは、1番目が発想(ヒラメキ)、2番目が調査計画、3番目は強い意志の順で、幸せを目指す意味を込めて黄色の色を使用、これはどんなに素晴らし

い計画も強い意志(想い)があつて初めて事業が実を結ぶことの意味。

・矢印が折れて下降しているのは困難に突き当たった時、そこから学び組織力(創意工夫、団結力)で乗り越え更に飛躍し目標に向かって突き進む決意を表現。

・緑色の輪はエコロジー及び全てにおいての調和(バランス)を大切にしていくことの意味。

・酪農の基本は乳牛。乳牛の徹底した管理が常に重要なので輪のセンターにホルスタインの模様を表現。

デザインを担当された垣田さんはじめ従業員の皆さんもこのロゴマークは大変お気に入りです。「このロゴマークを作成してからみんなのモチベーションが一気に上がったし、自信もさらに強くなった」と中村さんは語っておられました。

今後の目標について

中村さんに今後の目標について伺ったところ、「牛舎の増築を行い将来的には200頭くらいまでに増頭を行いたい。この事は従業員と一緒に将来の夢として語り合っていることだが、従業員、そして後継者育成のためにも必ず実現したいと思っている」と語っていただきました。また、沖縄の「観光資源」としての



哺育

面も活用し、観光客を対象とした宿泊施設や牛舎見学コースを設け、個人や団体の牛舎見学を受け入れると共に、酪農の体験学習や地域の特性、特産物、観光施設など地域の魅力を幅広く紹介していくことも視野に入られて取り組んでいきたいと考えておられるそうです。

取材を終え最後に中村さんに牛舎内を案内して頂きましたが、清潔で明るい牛舎、そして何より活き活きとした表情で作業に取り組まれる従業員の皆さんの姿が大変印象的でした。

アミファーム(株)の更なる発展、そして「進化」を祈念し、取材を終えました。

アミファーム(株) ホームページ
<http://www.aamifarm.com/>

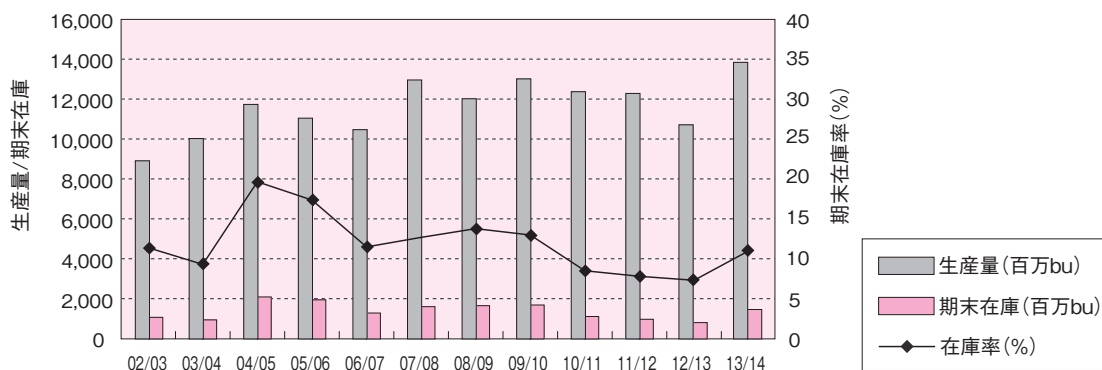


原料情勢

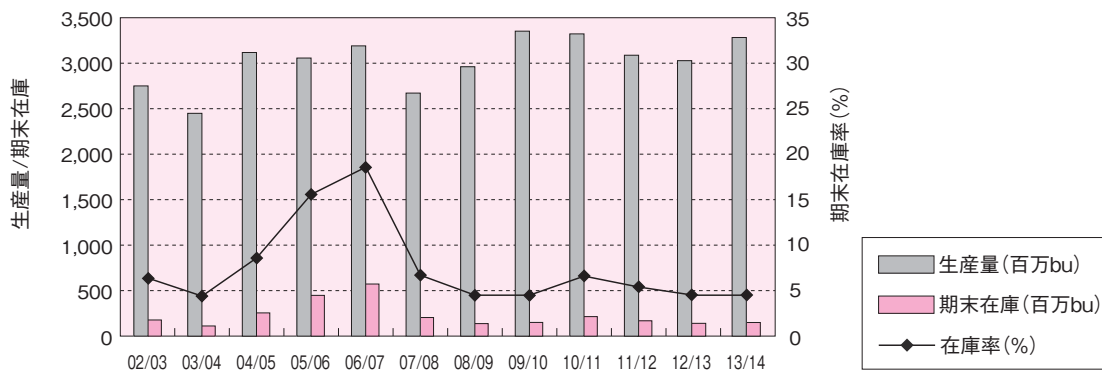
平成26年2月

2月10日発表 米国農務省 トウモロコシ 需給予想	【12/13年産】 作付面積97.2百万(前月97.2百万) エーカー、単収123.4 (123.4) bu/エーカー、生産量107億8,000万 (107億8,000万) bu、総需要量111億1,100万 (111億1,100万) bu、期末在庫8億2,100万 (8億2,100万) bu、在庫率7.4 (7.4) %。 【13/14年産】 作付面積95.4百万(前月95.4百万) エーカー、単収158.8 (158.8) bu/エーカー、生産量139億2,500万 (139億2,500万) bu、総需要量133億 (131億5,000万) bu、期末在庫14億8,100万 (16億3,100万) bu、在庫率11.1(12.4)%。
トウモロコシ 相場動向	シカゴ相場は、未承認GMO品種混入による中国の米国産トウモロコシ輸入拒否等の問題から420¢台まで値を下げたが、米国内外の需要が旺盛なため下げ渋り、南米生産量が下方修正されたこともあり徐々に値を切り上げ、現在は440¢台の値動き。今後の需給予想は、米国産は豊作だが、今回の発表で需要が予想以上に上方修正されたことから、引合いの強さが見取れる。現時点では大きな材料がなく、相場は比較的落ち着いているが、南米の生産量が減少する可能性があることや、米国産の引合いの強さから徐々に値を切り上げてきているため、注意が必要。
国内産大豆粕	米国産大豆需給予想の13/14年見通しは、生産量・需要量が同程度増加し、期末在庫見通しは1億5,000万 (1億5,000万) bu、在庫率4.5(4.5) %と前月と変わらない結果となった。シカゴ大豆相場は、全米の月間搾油量の増加、アルゼンチンでの天候不順や中国の契約問題から値を上げている。国産は低調ながら安定した発生量がある見込みだが、輸入に関しては、日本が依存しているインド産、大豆粕高の影響による中国産の減少から輸入数量が大きく減少しており、今後はタイトな展開が予想される。
槽糠類	フスマの発生量は減少傾向にあり、需給は引き締めつつある。輸入ふすまは入船は順調だが、価格帯は高めで推移している。今後はタイト感からの価格上昇に注意が必要。グルテンフィードの国内発生量は、例年に比べ少なめに推移しているが、配合割合の減少から需給は若干緩みつつある。輸入品は中国の旧正月前に増加した需要が落ち着きを取り戻しつつあり、需給は安定する見込み。
海上運賃	海上運賃は、中国の旧正月前の駆け込み需要も見られず、旧正月が明けた中国が市場に戻ってきたが、落ち着いて推移している。ブラジルの輸出量は順調に推移する見込みであり、かなりの数の船が既に南米に向かっている。需要がしっかりしているため、今後は強含みで推移する見込み。

米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



米国産大豆生産量と期末在庫の推移



輸入粗飼料の情勢 平成26年2月

北米コンテナ船 フレート	延期されていた2月からのGRI(基礎レート) 値上げ予定は、大半の会社がさらに延期している模様。どの船会社もコンテナ部門の採算悪化が続いており、今後も海上運賃は強含みの予想。PSWのロサンゼルス/ロングビーチ港ではシャーシの無料貸出を停止する船会社が増えている模様。また、1月末に降雨と降雪があった影響で、PNWのシアトル/タコマ港やポートランド港ではコンテナ搬入の遅れが懸念される。
カリフォルニア の旱魃状況	何か月にもわたって停滞した高気圧の影響で、カリフォルニア州では100年に1度とも言われる大干ばつに見舞われている。同州知事が非常事態宣言を発令するほど事態は深刻化しており、放牧用の牧草の生育にも影響が出ている模様。そのため、アルファルファをはじめ、どの草種も産地価格は上昇傾向にあると伝えられている。(下段参照)
ビートパルプ	【米国産】 砂糖の相場価格が低調に推移しており、かつ作付の遅れによる単収減が予想されることから、13年産の作付面積・生産量は前年比5%減の見込み。生産量が減少している欧州からの引合いも強く、産地価格は堅調に推移している。降雪の影響によるデリバリーの混乱に注意が必要。 【中国産】 13年産作付面積が減少し、生育中の天候も良くなかったため、生産量は前年比25%減と伝えられている。韓国と日本向けの輸出数量は限定的になる見込みで、買付けを断念せざるを得ないような今までにない高い価格提示もあるようで、他産地ほど生産量が減少していない米国産へ切り替えることも有益と思われる。
アルファルファ	13年産は、どの産地も雨当たり被害を受け、例年では考えられないような悪い作柄となった。米国産の輸出量は1位のUAEと2位の中国向けを合わせると6割強を占めており、主導権は両国が握っていると言える状況。14年産以降もさらに両国の輸出量は増加する見込みであり、かつサウジアラビア向けにも本格的に船積みが始まるとも言われており、注意が必要。
チモシー	【米国産】 主産地のコロンビアベースンとエレンズバーグでは、1番刈収穫時期の6月中下旬にあった降雨の影響で8~9割の雨当たり被害が発生し、“史上最悪な厳しい作柄”となった。ハイレード品の確保は極めて困難な状況。また、10月出港分から屋内くん蒸費用を加算しており、費用対効果のある価格帯ではなくなっているため、他草種への移行も視野に入れる必要があると思われる。作柄の良し悪しに係わらず生産コストに対し高く売れており、14年産の作付面積はさらに増えることが早くも見込まれている。 【カナダ産】 主産地のレスブリッジとクレモナ(アルバータ州中央部)では収穫時期に降雨があり、ハイレード品の発生は限定的。カナダ産も作柄は悪く、産地価格は手の届かないところまで高騰しているのが現状。米国産同様に他草種への移行を検討する必要があると思われる。生産コストに対して高く売れており、小麦やキャノーラなどの穀類の相場価格が一時期に比べ軟化していることから、14年産の作付面積は増えることが予想されている。
スーダン	【インベリアルバレー産】 茎細のプレミアム品や、きれいなスタックの発生が少なかったことから、13年産は茶葉混入が目立つローグレード品以外は、ほぼ売切れの模様。産地価格についても、引き続き強含みで推移している。主産地のインベリアルバレーでは、ロッキー山脈から流れるコロラド川が水源となっているため、今回の干ばつがもたらす影響は大きくないと見込まれている。軟調に推移しているデュラム小麦価格や、農業用水の使用制限の動向次第で、14年産の作付面積が左右すると考えられている。
クレイン グラス	インベリアルバレーの1/15時点での作付面積は前年対比105%。生育期と収穫時期に暑い時期が続いたことにより、良品の発生が多い作柄となった。産地価格は、韓国向けの引合いが弱めに推移していたことも受け、前年よりも少し軟化している。科本科牧草の中では割安感もあるため、チモシーやスーダングラスからの切り替えも有益であると思われる。スーダングラス同様に農業用水の使用制限について実施強化も懸念される一方、クレイングラスは多年草で刈取回数も多いことから、生産コストに対して収入が安定しているとの考えられるため、14年産作付面積の推移は予想が難しくなっている。
オーツヘイ	13年産は、どの産地も11月までに収穫が終了。雨当たり被害はあるものの大半が軽い雨で済んでいるため、ハイレード品は限定的で、見た目がきれいな中間・ローグレードが多く発生している。ハイレード品の価格は強含みで推移しているものの、中間・ローグレードの価格は弱含みで推移している模様。豪州ドルの動向次第だが、チモシーやスーダングラスから切り替えて使用することも有益であると思われる。また、12年産はほとんどがハイレードだったこともあり、在庫を繰り越して13年産のハイレード不足分を補おうとするサプライヤーも見受けられる。一方で、繰越在庫が少なく、中間グレードをハイレード品として売る可能性もあるため、買付け時には注意が必要。

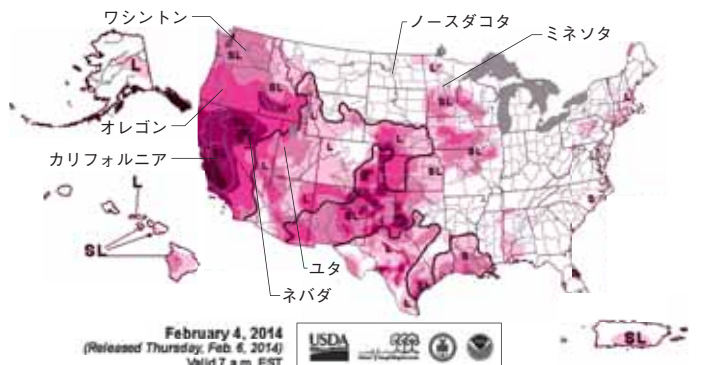
アメリカの干ばつ状況 2014.02.04

- D0 異常な乾燥 S 短期間(6か月未満)
- D1 中程度の旱魃 L 長期間(6か月以上)
- D2 厳しい旱魃
- D3 極めてひどい旱魃
- D4 異常なほどひどい旱魃

The Drought Monitor focuses on broad-scale conditions. Local conditions may vary. See accompanying text summary for forecast statements.

<http://droughtmonitor.unl.edu/>

Author:
Anthony Artusa
NOAA/NWS/NCEP/CPC



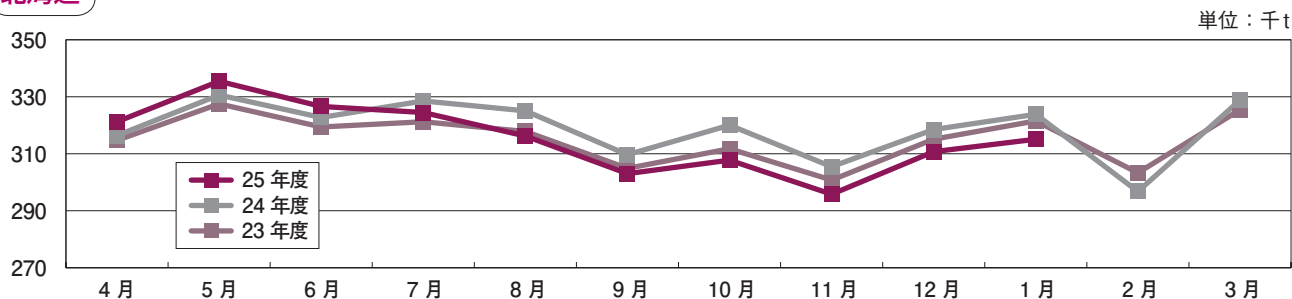
生乳受託販売乳量

受託販売乳量

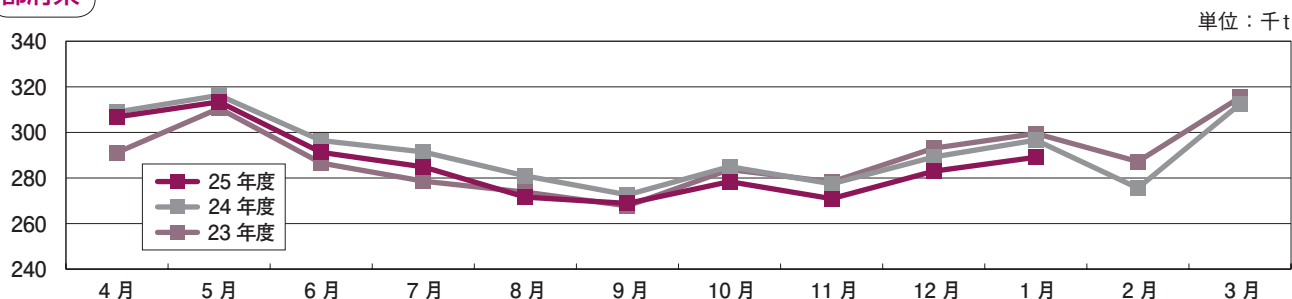
全国 604,189t で、前年同月に比べ 16,290t(2.6%) 減少した。
北海道 315,096t で、前年同月に比べ 8,759t(2.7%) 減少した。

都府県 289,094t で、前年同月に比べ 7,531t(2.5%) 減少した。

北海道



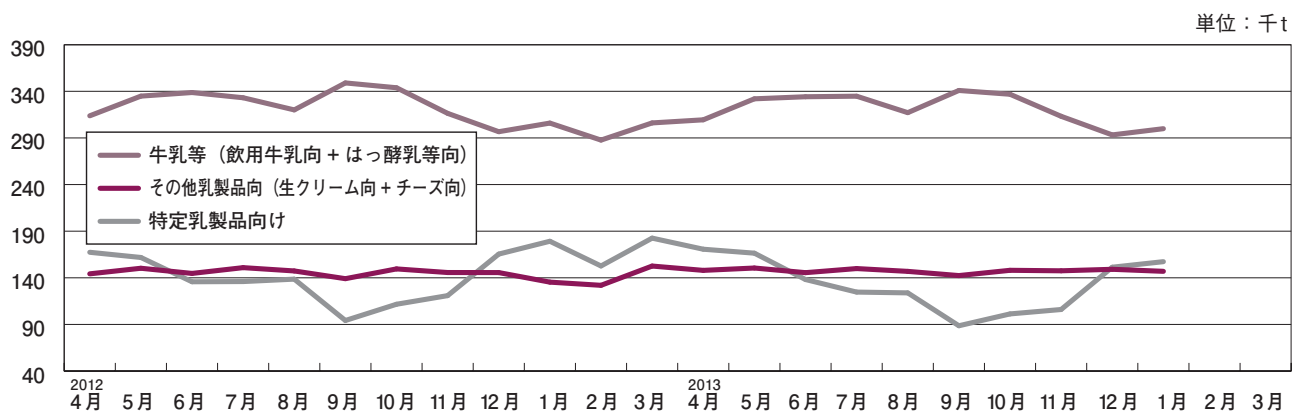
都府県



用途別販売数量

飲用向 261,838t で、前年同月に比べ 5,610t(2.1%) 減少した。
はっ酵乳向 38,084t で、前年同月に比べ 387t(1.0%) 減少した。
クリーム向 102,347t で、前年同月に比べ 6,500t(6.8%) 増加した。

チーズ向 44,609t で、前年同月に比べ 5,096t(12.9%) 増加した。
特定乳製品向 157,310t で、前年同月に比べ 21,887t(12.2%) 減少した。



各地の需給動向

*前年比については、閏年修正を行っておりませんのでご注意ください。

【仙台】1月の生産は前年比96.8%。12月と比較し、日量は増加している。一方で需要は、引き続き堅調。飲用牛乳向けは101.1%、特定乳製品向けは82.9%と前月からのトレンドとなった。

【関東】生産は徐々に回復。1月全体で前年比97.8%。需要は、年始の休み中はほぼ予定通りで動きが無かった。休み明けからは予定を少し下回る乳業者が多く、重ためで月末まで推移した。その結果、飲用牛乳向けは96.4%と前年を下回り、特定乳製品向けは110%と大きく前年を上回った。

【東海】1月の生産は、日量で見るとほぼ横ばい。全体では前年比97.2%。特に下旬は前年比96%台となっている。飲用牛乳向けは97.4%、特定乳製品向けは84.7%と大きく減少している。

【近畿・中国・四国】生産は季節的に回復すると見ていたが、ほぼ横ばい(近畿96.8%、中国97.1%、四国96.5%)。一方処理量は、年末年始が堅調だったことから、休み明けから引き合いがあった。(飲用牛乳向け前年比：近畿96.1%、中国96.0%、四国101.9%)

【九州】生産は見込みより上ブレし、前年比98.2%。処理は上中旬不調であったが、下旬には落ち着いた。その結果飲用牛乳向け97.6%、特定乳製品向け95.2%となった。

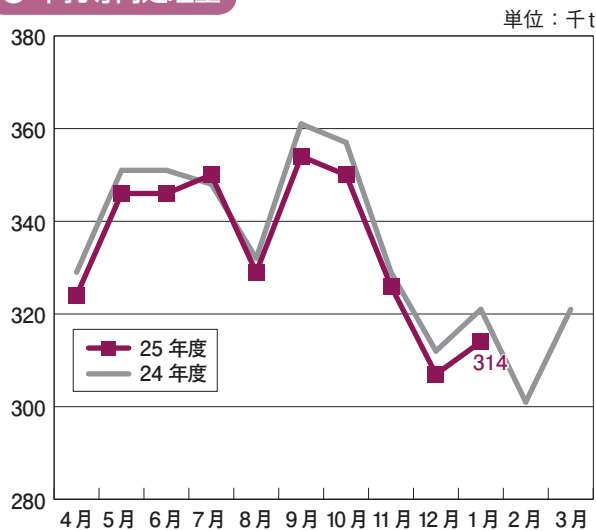
用途別生乳処理量

単位：千t

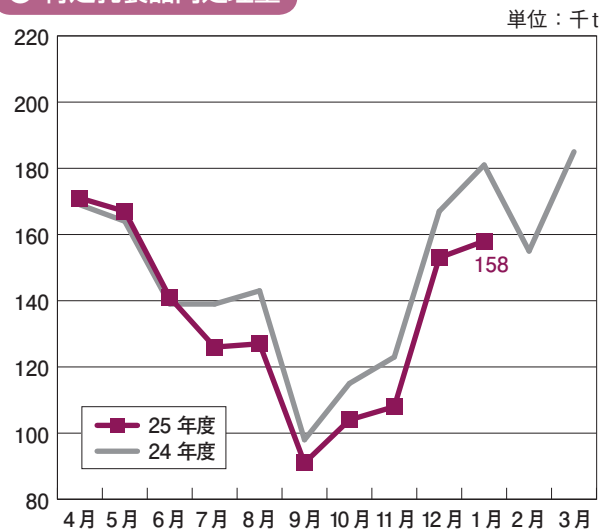
年月	生乳 生産量	用途別処理量計							年月	生乳 生産量	用途別処理量計						
		牛乳等向 ①	乳製品向			特 定 乳製品向 ②	その他乳製品向				牛乳等向 ①	乳製品向	特 定 乳製品向 ②	その他乳製品向			
			クリーム向 ③	チーズ向 ④	クリーム向 ③		チーズ向 ④										
2012. 4月	649	645	329	316	169	147	106	42	2013. 4月	650	645	324	321	171	150	106	44
5月	671	667	351	316	164	152	108	45	5月	671	666	346	320	167	153	107	46
6月	642	637	351	286	139	147	106	41	6月	638	633	346	287	141	147	105	42
7月	644	639	348	291	139	153	111	42	7月	632	627	350	278	126	151	109	42
8月	630	625	332	293	143	149	107	43	8月	608	603	329	274	127	147	107	40
9月	604	599	361	238	98	140	106	34	9月	593	588	354	235	91	144	107	37
10月	628	623	357	266	115	151	111	40	10月	608	604	350	253	104	150	109	40
11月	605	600	329	271	123	147	109	39	11月	588	583	326	257	108	149	111	38
12月	632	627	312	315	167	148	108	40	12月	616	612	307	305	153	151	114	37
2013. 1月	644	639	321	319	181	138	96	42	2014. 1月	626	622	314	308	158	150	103	47
2月	595	590	301	289	155	134	96	38	2月								
3月	664	660	321	339	185	155	113	41	3月								
年度計	7,608	7,550	4,012	3,538	1,777	1,761	1,276	485	年度計	6,231	6,184	3,346	2,838	1,346	1,492	1,080	412

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

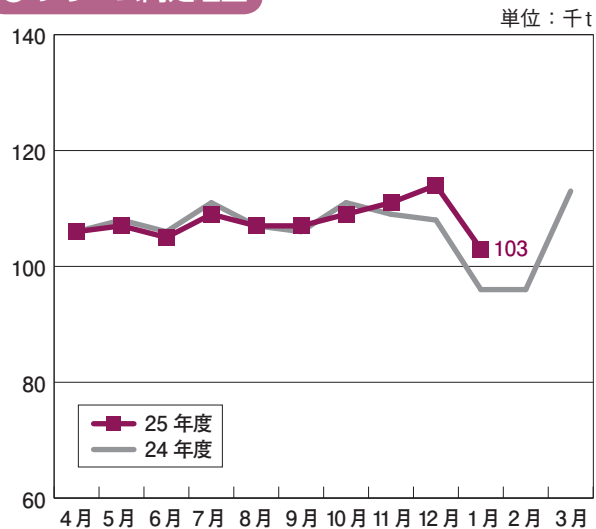
① 牛乳等向処理量



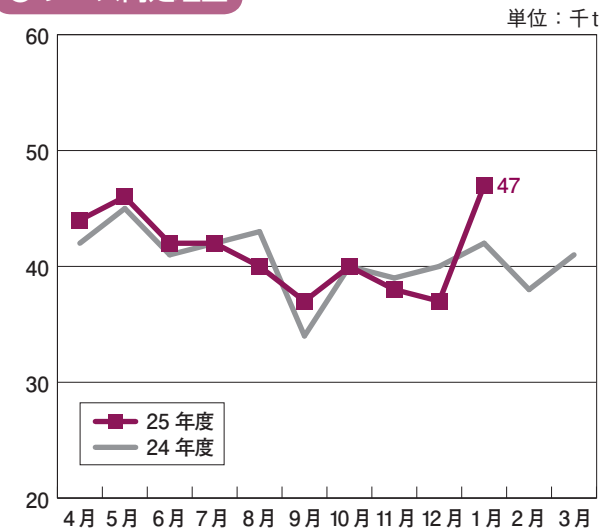
② 特定乳製品向処理量



③ クリーム向処理量



④ チーズ向処理量



特定乳製品（脱脂粉乳・バター）の国内生産及び出回り量の推移

※生乳需給動向の指標となる特定乳製品の生産及び消費の動向です。

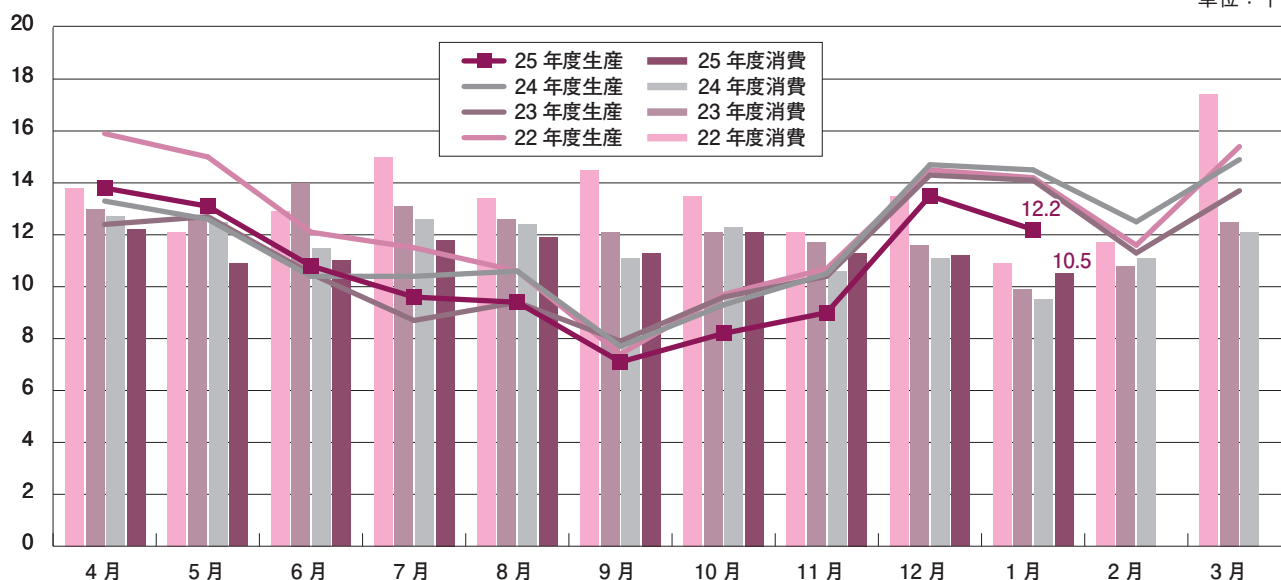
単位：千t

年月	脱脂粉乳生産量	脱脂粉乳消費量	バター生産量	バター消費量	年月	脱脂粉乳生産量	脱脂粉乳消費量	バター生産量	バター消費量
2012. 4月	13.3	12.7	6.7	6.4	2013. 4月	13.8	12.2	7.0	6.1
5月	12.6	12.5	6.5	6.4	5月	13.1	10.9	7.0	5.5
6月	10.4	11.5	5.5	6.8	6月	10.8	11.0	5.7	5.8
7月	10.4	12.6	5.4	6.2	7月	9.6	11.8	5.1	5.8
8月	10.6	12.4	5.6	6.0	8月	9.4	11.9	5.1	5.7
9月	7.7	11.2	3.7	5.8	9月	7.1	11.3	3.6	5.0
10月	9.3	12.5	4.3	5.6	10月	8.2	12.1	3.9	5.5
11月	10.5	10.9	4.8	5.7	11月	9.0	11.3	4.2	6.2
12月	14.7	11.1	6.2	7.8	12月	13.5	11.2	5.5	7.3
2013. 1月	14.5	9.5	7.6	4.8	2014. 1月	12.2	10.5	6.5	4.9
2月	12.5	13.9	6.3	6.5	2月				
3月	14.9	17.7	7.4	8.7	3月				
年度計	141.4	148.5	70.1	76.7	年度計	106.7	114.2	53.5	57.9

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」、農畜産業振興機構、農林水産省生産局畜産部牛乳乳製品課調べ

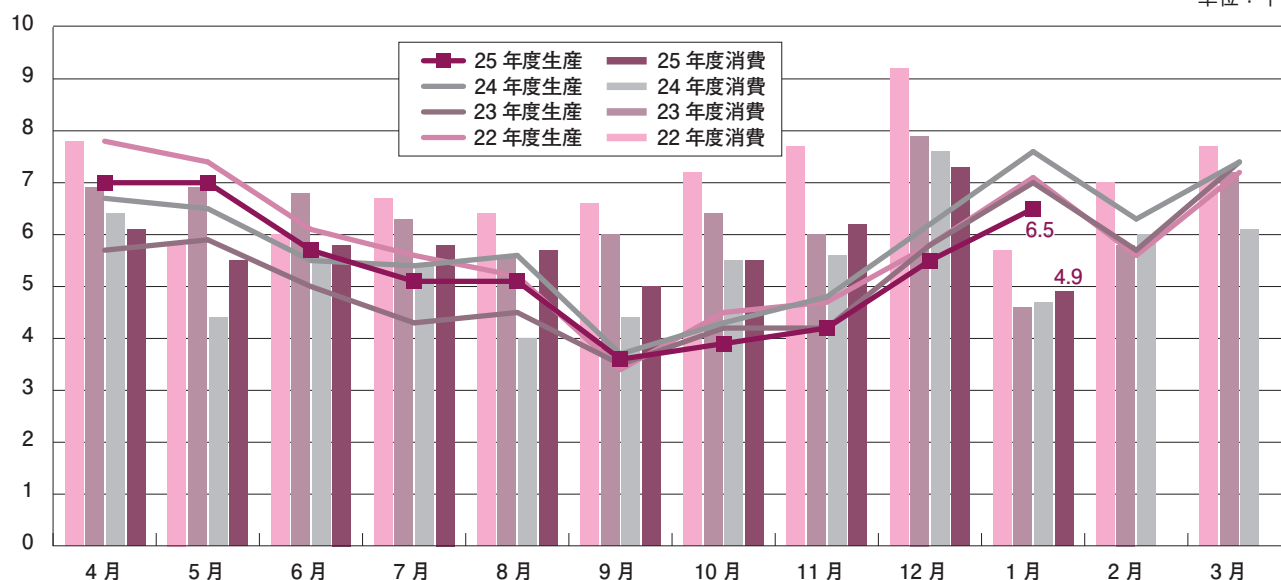
脱脂粉乳の生産及び出回り量推移

単位：千t



バターの生産及び出回り量推移

単位：千t



脱脂粉乳・バターの国内在庫及び大口需要者価格の月別推移

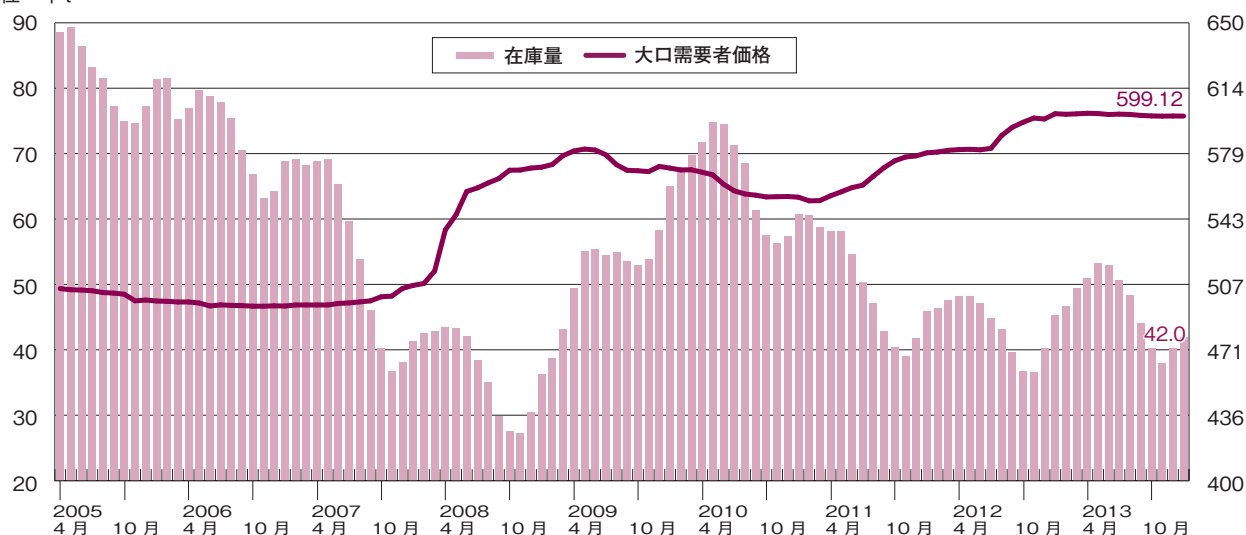
区 分	バター		脱脂粉乳		区 分	バター		脱脂粉乳	
	期末在庫量	大口需要者価格	期末在庫量	大口需要者価格		期末在庫量	大口需要者価格	期末在庫量	大口需要者価格
年度/月	千t	価格 円/kg	千t	価格 円/kg	年度/月	千t	価格 円/kg	千t	価格 円/kg
2012. 4月	19.4	1,116.2	48.2	580.80	2013. 4月	24.4	1,177	51.0	600.65
5月	21.5	1,122.9	48.2	580.99	5月	25.8	1,178	53.2	600.50
6月	21.5	1,132.4	47.1	580.69	6月	25.7	1,178	53.0	599.96
7月	21.5	1,135.2	44.9	581.49	7月	25.0	1,177	50.7	600.19
8月	23.2	1,145.7	43.2	588.53	8月	24.5	1,178	48.3	600.00
9月	22.4	1,154.3	39.7	593.03	9月	23.0	1,178	44.1	599.50
10月	21.3	1,155.2	36.7	595.73	10月	21.4	1,177	40.3	599.20
11月	20.5	1,159.0	36.6	598.06	11月	19.4	1,178	38.0	599.09
12月	19.0	1,161.0	40.3	597.52	12月	17.6	1,178	40.3	599.16
2013. 1月	21.9	1,165.7	45.3	600.42	2014. 1月	19.1	1,178	42.0	599.12
2月	22.2	1,174.3	46.7	600.11	2月				
3月	23.5	1,174.3	49.5	600.34	3月				
年度計	257.9	13,796.2	526.2	7,097.71	年度計	225.9	11,777	460.9	5,997.37

資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」、大口需要者価格

脱脂粉乳 国内在庫・大口需要者価格推移

単位：円/kg

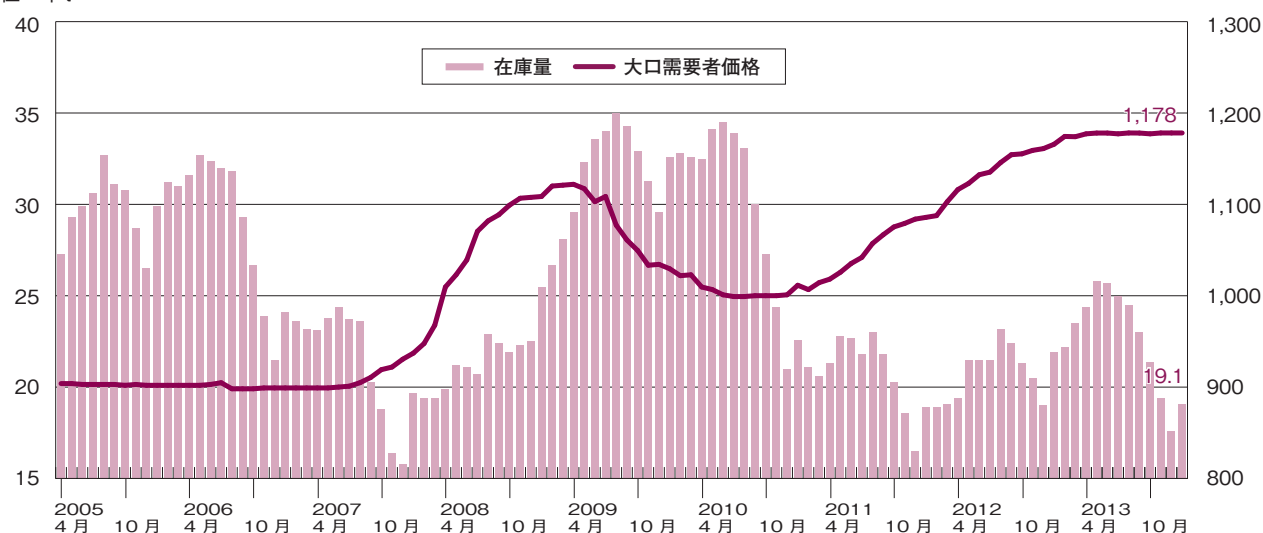
単位：千t



バター 国内在庫・大口需要者価格推移

単位：円/kg

単位：千t



作品募集のお知らせ

主催：全国酪農青年女性会議

第41回

らくのう こどもギャラリー

1 募集規定

- (1) 酪農を中心とした題材の図画(大きさは自由)
- (2) 自作で未発表のものに限ります。
- (3) 作品には、題名・住所・氏名・振り仮名・年齢・学校名・学年・保護者名を必ず記載してください。また、酪農家の子弟については保護者の所属組合名を記載してください。
- (4) 作品返却を希望される方は応募時に返却希望の旨を申し出てください。

2 応募資格

4歳から中学生までの酪農家の子弟、および酪農に関心のある一般のお子さん。

3 締切日

平成26年5月30日(金)(当日消印有効)

4 提出先

下記「提出先一覧」中の最寄りの酪農青年女性(婦人)会議事務局宛に提出してください。

5 審査結果の発表

「第43回全国酪農青年女性酪農発表大会」の発表資料要旨、および全酪連会報7月号に審査結果を掲載いたします。



第40回特選 清水胡遥さん

6 褒賞

- ・特選 1点
- ・入選 4点以内
- ・秀作 若干
- ・ファミリー賞 若干
(牛とのふれあいなど、ほのぼのとした雰囲気を持つ作品に贈られます)
- ・あすなろ賞 若干
(小学校入学以前の方の優秀作品に贈られます)

◎特選に選ばれた方は、保護者(1名)同伴で「第43回全国酪農青年女性酪農発表大会」に招待します。

◎入賞者には記念品を贈呈いたします。

◎図画の優秀作品は、作者の顔写真・審査講評と共に「全酪連会報」の最終ページに掲載します。



第5回

酪農いきいき フォトコンテスト

全国酪農青年女性会議では、酪農家の生活や牛乳の生産現場をより鮮明に消費者に伝えていくことを目的に、「酪農いきいきフォトコンテスト」を実施します。

つきましては、下記のとおり作品を募集しますので、ふるってご応募いただきますようお願いいたします。

1 テーマ

- ①「牛のいる風景」
- ②「酪農作業風景」

※いずれも、酪農家がいきいきと牛乳生産に励む様子や、安心安全な牛乳生産のため懸命に仕事に取り組む姿勢が感じられるようなもの。



第4回最優秀賞 丹野貴子氏

2 募集規定

- (1) 写真は可能な限りデータで提出してください。
- (2) 自作で未発表のものに限ります。
- (3) 作品には、題名・氏名・振り仮名・住所・所属組合名を必ず記載してください。

3 応募資格

酪農家

4 締切日

平成26年5月30日(金)(当日消印有効)

5 提出先

下記「提出先一覧」中の最寄の酪農青年女性(婦人)会議事務局宛に提出してください。

6 審査方法

応募作品を「第43回全国酪農青年女性酪農発表大会」の会場内に掲載し、大会参加者の投票による審査を行います。
(応募多数の場合は事務局による予備審査を行います。)

7 審査結果の発表

- ①「第43回全国酪農青年女性酪農発表大会」2日目に投票結果として掲示します。
- ②「全酪連会報」の表紙に使用します。(号数未定)

8 褒章

- ・特選 1点 (2テーマの中で特別に投票数の多かった作品)
 - ・入選 若干数(特選を除いて投票数の多かった作品点数)
- ◎入賞者には賞品を贈呈いたします。
- ◎提出していただいた作品の返却はいたしません。
- ◎応募していただいた作品は、全酪連会報への掲載を含め、今後各地での牛乳消費拡大活動(「父の日に牛乳を贈ろう!」キャンペーン含む)等で使用することがありますのでご了承ください。

提出先一覧

◆北海道酪農青年女性会議
〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目1
酪農センター 全酪連札幌支所内
TEL 011-241-0765

◆東北酪農青年婦人会議
〒980-0021 仙台市青葉区中央1-7-20
東邦ビル 全酪連仙台支所内
TEL 022-221-5381

◆関東甲信越酪農青年女性会議
〒108-0014 東京都港区芝4丁目17-5
全酪連東京支所内
TEL 03-5931-8011

◆中部酪農青年女性会議
〒460-0008 名古屋市中区栄1-16-6
名古屋三蔵ビル3F 全酪連名古屋支所内
TEL 052-209-5611

◆西日本酪農青年女性会議
〒532-0011 大阪市淀川区西中島5-14-10
サムティ新大阪フロントビル6階 全酪連大阪支所内
TEL 06-6305-4196

◆九州酪農青年女性会議
〒812-0016 福岡市博多区博多駅南1-2-15
事務機ビル 全酪連福岡支所内
TEL 092-431-8111

乾乳期・移行期専用配合飼料

今春
新登場!

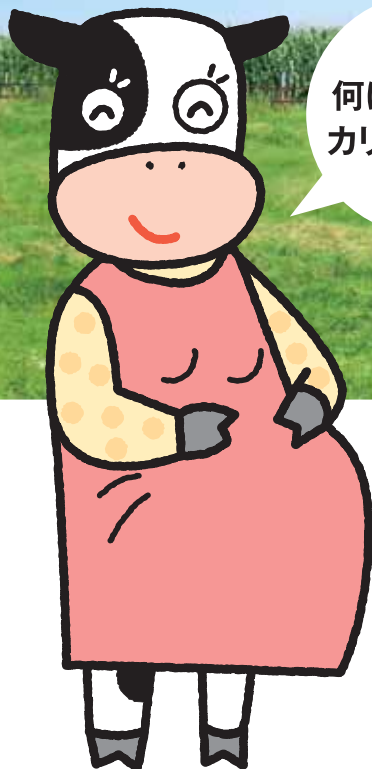
DRY&FRESH SE

ドライ&フレッシュSE

移行期対策にお悩みですか?
おまかせ下さい!

移行期牛管理のゴール

- 高泌乳の達成
- ボディ・コンディションの維持
- 代謝障害を最小に
- 繁殖の向上
- 健康な子牛の誕生



何はともあれ
カリウム低減!

DRY&FRESH SE

ドライ&フレッシュSE

- クローズアップ期に必要なミネラル・ビタミンを強化!
マグネシウム、イオウ、セレンも配合しました。
- ビートバルブをふんだんに配合し、カリウム低減と、
分娩後の乾物摂取量の向上を実現します。
- 『アリメット』『ソイプラス』を配合し、ルーメン・バイパス・
メチオニンとリジンを強化しています。



20kg

詳しくは最寄りの全酪連支所までお問い合わせください。



Your Partner 全酪連

購買部 03(5931)8007



札幌支所 011(241)0765
釧路事務所 0154(52)1232
帯広事務所 0155(37)6051
道北事務所 01654(2)2368

仙台支所 022(221)5381
北東北事務所 019(688)7143
東京支所 03(5931)8011
北関東事務所 027(310)7676

栃木駐在員事務所 028(689)2871
名古屋支所 052(209)5611
大阪支所 06(6305)4196
中四国事務所 086(231)1120

近畿駐在員事務所 0794(62)5441
三次駐在員事務所 0824(68)2133
福岡支所 092(431)8111
南九州事務所 0986(62)0006

酪政連活動報告

平成 25 年 12 月～ 26 年 2 月

日本酪農政治連盟

H 25 12/20	自民党農林水産戦略調査会・農林部会・ 農政推進協議会合同会議 ◆ 平成 26 年度畜産物価格、予算の決定につ いて	2/12	指導監査 ◆ 平成 25 年度決算に関する会計事務所の 監査
12/20	挨拶回り(副委員長ほか) ◆ 平成 26 年度畜産物価格、予算決定に係る 御礼	2/14	日本の畜産ネットワークによる TPP 関連要請活動(幹事長) ◆ 交渉における国会決議厳守等を石破幹事長 へ要請
12/24	自民党農政推進協議会・農林部会合同 会議 ◆ 平成 26 年度畜産物価格、予算決定内容に ついて		 石破幹事長を訪ね要請
12/24	農水省牛乳乳製品課との打合せ ◆ 平成 26 年度予算について		
12/25	TPP 政府対策本部説明会(委員長) ◆ 交渉会合内容等について		
12/25	農水省牛乳乳製品課との打合せ (委員長、幹事長ほか) ◆ 平成 26 年度畜産物価格、予算等について	2/18	事務局長・担当者会議 (委員長、幹事長ほか) ◆ 本連盟の 25 年度決算案、26 年度予算案 の報告 ◆ 国の 25 年度補正予算、26 年度予算・畜産 物価格に関する研修
H 26 1/7	畜産団体賀詞交歓会 (委員長、幹事長ほか)		 酪政連 佐々木勲委員長
1/8	年始挨拶(委員長、幹事長ほか) ◆ 主要国会議員巡回		
1/27	三役会議、合同委員会 ◆ 今後の酪政連活動について ◆ 国会への挨拶活動  委員会の様子		
2/7	TPP 対応検討協議会幹事会(幹事長) ◆ TPP に関する今後の活動について	2/20	自民党「TPP 交渉における国益を守り 抜く会」(幹事長ほか) ◆ 甘利担当大臣とフロマン米国通商代表部 代表の会談内容について ◆ 事務レベル協議内容について ◆ TPP 閣僚会議に向けた政府対応について

北海道 乳牛産地情報

平成26年3月1日現在

札幌支所 TEL 011-241-0765
 釧路事務所 TEL 0154-52-1232
 帯広事務所 TEL 0155-37-6051
 道北事務所 TEL 01654-2-2368

価格状況 ▲.....強含み ▼.....やや強含み →.....横這い ⇩.....やや弱含み ↓.....弱含み

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	30~34	→	2月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計95.0%、累計で97.5%、苫小牧管内月計で97.8%、累計で96.7%の実績。3月の初妊牛動向について、5月腹を中心に取引されるものと思われます。札幌管内では生乳生産量が落ち込んでいるため、初妊牛を自家保留する動きがあり、出回り頭数が減少することが予想されます。また、春産みの需要の高まりから価格も堅調に推移するものと思われます。
	初妊牛	52~58	▼	
	経産牛	43~48	→	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	30~36	▼	2月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で94.3%、累計98.4%、中標津管内で94.3%、累計で96.9%の実績。3月の初妊牛の動向ですが、当管内の4月腹は殆どなく、5月~6月腹中心で動くものと思われます。現在、F1腹とホルス腹の価格差は歴然ですが、今後は生乳生産量の増産や規模拡大をする地元酪農家が、ホルス選別腹やホルス腹を中心に購買する予定があるため価格差が縮小し、全体の相場はやや強含みで推移するものと思われます。
	初妊牛	54~58	▼	
	経産牛	48~50	▼	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	29~34	→	2月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計で98.9%、累計で100.1%の実績。3月の初妊牛動向について、5月~6月腹を中心に取引されますが、初妊牛市場が月2回開催されることから、非常に荷動きが激しく、瞬間に資源が希薄になるものと思われます。価格も春産みの需要が高まることから、やや強含みで推移するものと思われます。現在はF1腹が特に強い引合いがあり、次いでホルス選別腹、ホルス腹の順となっていますが、資源の状況によっては、F1腹とホルス腹の価格差が狭まることも予想されます。
	初妊牛	54~60	▼	
	経産牛	45~50	→	
道北管内	育成牛(10-12月令)	28~35	→	2月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計で96.2%、累計で98.8%、北見管内では月計で97.8%、累計で99.0%の実績。3月の初妊牛の動向につきましては、4~5月分娩中心ですが、2月から荷動きが激しく、多頭数購買の動きがありました。3月に入っても2月同様、道内及び都府県の春産み購買が多く見込まれ、価格の高騰は避けられない状況にあります。特にF1腹が高騰し続けている中、価格面によりホルス腹購買にシフトする傾向も徐々に出てきています。
	初妊牛	52~58	▼	
	経産牛	43~48	→	
道内総括	育成牛(10-12月令)	30~35	→	道内の2月中旬までの生乳生産量前年比は96.4%、累計で98.5%の実績。年明けから高騰していた初妊牛相場ですが、高値安定で3月も取引されるものと思われます。特にF1腹の引合いが強いですが、高値に嫌気してホルス腹を購買する動きも出てきています。分娩は5月~6月腹中心となりますが、道内での生乳生産も不足していることから出回り頭数は少なくなるものと思われます。年度内に導入される希望がありましたら、価格、分娩腹等に余裕を持った注文をお願いいたします。
	初妊牛	55~60	▼	
	経産牛	45~50	→	

※上記相場は、血統登録牛(中クラス)の庭先選畜購買による予想相場です。庭先選畜購買のため、市場購買とは異なり、価格差が生じます。

今月の表紙

ごはんまだーみんなまってるよ！

今月の表紙は、「第4回酪農いきいきフォトコンテスト」(第42回全国発表大会にて開催)で応募いただいた「ごはんまだーみんなまってるよ！」(福島県 小林 加代子氏 撮影)です。子供と猫が写っている時点でメロメロですが、牛も入ることで、全国の酪農家さんの心をわし掴みにする作品です。



編集後記

▼平成25年度も終わりに近づいてきました。来年度も「全酪連会報」をよろしく願っています。

▼会報に関するご意見・ご要望等があれば、以下のアドレスにメールをいただければ幸いです。

shidoukikaku@zenrakuren.or.jp



平成26年3月10日発行(毎月1回10日発行)

ZENRAKUREN
MEMBER'S INFORMATION

全酪連会報 3月号 No.582

●編集・発行人 中島 裕志郎

●発行 全国酪農協同組合連合会

〒108-0014 東京都港区芝四丁目17番5号

TEL 03-5931-8003

http://www.zenrakuren.or.jp/



今月の



入賞作品介绍

草をたべているおやこ

中川小学校(西日本)1年 鳥越 瑞希



今月の入選作品は、中川小学校（西日本）1年の鳥越 瑞希さんの作品です。
草を食べている牛さん親子が花やワンちゃんに囲まれていて楽しい感じに描けました。クレヨンでしっかりと形をとった後、水彩絵の具を使って仕上げています。牛さん親子の表情がとても印象的な微笑ましい作品になりましたね。

※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第40回らくのうこどもギャラリー」で
全国377点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催 全国酪農青年女性会議